

平成28年11月29日
(2016年)

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第五小学校
校長 清水 洋子

平成28年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成28年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要をホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

◎国語A（『主に知識』に関する問題）

- ・全国値とほぼ同じである。
- ・登場人物の人物像について、複数の叙述を基に捉えることはできている。

◎国語B（『主に知識の活用』に関する問題）

- ・全国値をやや下回っている。
- ・インタビューの質問の意図は読み取ることができるが、文章の内容理解には課題が見られる。

●国語《各領域における成果と課題と、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・国語Bは全国値とほぼ同じ。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することはできている。
- ・目的や意図に応じて収集した情報を関連付けしながら話し合ったり、書いたりすることに課題が見られる。

書くこと

- ・国語Aは全国値を上回っている。
- ・目的や意図に応じて書く事柄を整理することはできている。
- ・グラフを基に分かったことを的確に書くことに課題が見られる。

読むこと

- ・国語Aは全国値を上回っている。
- ・目的に応じて、図と表とを関連づけて読むことができている。
- ・目的に応じて本や文章を比べて読むなど読み方を工夫することに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・全国値を下回っている。(国語Aのみ出題)
- ・ローマ字で表記されたものを正しく読み書きすることに課題が見られる。
- ・新出漢字の読み書きは概ねできているが、教科書の新出漢字で習う読み方以外の読みが定着していない。

●国語科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①文章や話の要旨を的確に捉えること。
- ②いろいろな情報を関連付けながら話し合うこと。
- ③資料を基に分かったことを適切に書くこと。
- ④漢字やローマ字を読んだり、書いたりすること。

◇指導の改善ポイント

- ※読書活動を充実させ、様々な文章表現に親しませると共に、語彙の拡充を図る。
- ※教科書教材だけでなく、とりわけ高学年で新聞やグラフなどの資料の入った教材を取り入れて様々な文章を読み、要旨をつかむことに慣れるようにする。
- ※話し合いの趣旨に沿って自分の意見をまとめ、話し合ったり、発表したりする力を養う。
- ※資料を使った文章を用い、グラフを読み取らせて、まとめるなどの工夫をする。
- ※既習漢字の読み書きの定着を図るために、山五漢字検定などを行い繰り返し練習していく。
- ※作文指導に力を入れ、自分の思いや感じたことを表現する機会を設ける。
- ※外国語活動などで自分の名前や事物をローマ字で書いたり、総合の時間などで文章をローマ字入力する機会を設定したりして、ローマ字に親しむ機会を増やし定着を図る。

●算数《概要》

◎算数A（『主として知識』に関する問題）

- ・全国値をやや下回っている。
- ・計算の能力は概ね身につけているが、図形や割合についての理解に課題が見られる。

◎算数B（『主として活用』に関する問題）

- ・全国値をやや下回っている。
- ・数量関係や量と測定は概ねできているが、図形について式の意味を説明したり、できる形を判断したりすることに課題が見られる。

数と計算

- ・整数・分数の計算はよくできている。
- ・問題を読み取って式を立てたり、示された式の意味を説明したりすることに課題が見られる。

量と測定

- ・1 m²当たりや1人当たりなど、単位量当たりの大きさを求めることは概ねできている。
- ・三角形の底辺と高さの関係についての理解や、図形を構成する角の大きさを基に考えることに課題が見られる。

図形

- ・直方体における面と面の位置関係は、概ね理解できている。
- ・コンパスを使って正方形に内接する円を描いたり、三角定規を組み合わせで三角形や四角形を作ったりすることに課題が見られる。

数量関係

- ・表の中から必要な情報を選んだり、読み取ることができない事柄を特定したりすることは概ねできている。
- ・割合や百分率の意味についての理解に課題が見られる。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①問題を読み取って立式すること
- ②図形の性質を理解すること
- ③割合や百分率の意味を理解すること
- ④記述で説明をすること

◇指導の改善ポイント

※場面を式に表すために、簡単な場合で考えたり、図などに表して捉え直したりして、的確に場面を読み取ることができるようにする。

※色板並べや折り紙を使った形作りなど、具体物を用いた活動を重視し、図形の特徴を実感的に理解できるようにする。

※割合は比較量と基準量の関係を示していることを、図や式と関連付けて理解できるようにする。

※全体となる考えや理由等の根拠を明らかにして、理論的に考えたり説明したりする機会を増やし、文章で表現する力をつけていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・自分には良いところがあると思っている児童は6割近くで、全国値をやや下回っている。
- ・最後までやり遂げる喜びを感じている児童が多数いる。
- ・友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意な児童は5割近くで、全国値をやや下回っている。
- ・8割以上の児童は、家の人と学校での出来事について話をしている。
- ・8割以上の児童が、学校に行くのが楽しみであると答えている。
- ・9割以上の児童が、人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと9割以上の児童が強く思っている。
- ・毎日決まった時刻に就寝・起床している児童の割合が、全国値をやや下回っている。
- ・テレビやビデオ、DVDを観たり、コンピュータ・スマートフォンを使ったゲームをしたりしている時間が、全国値に比べて短い。
- ・7割近くの児童が携帯電話やスマートフォンを持っており、そのうちの約5分の1の児童が、毎日30分以上電話やメール、インターネットをしている。
- ・学校の授業時間以外に普段勉強している時間が、全国値に比べてやや短い。

- ・学校の授業時間以外で読書をしている時間が全国値より短く、まったくしていないと答えた児童が4割近くいる。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもっている児童の割合が、全国値よりやや下回っている。
- ・テレビやインターネットでニュースを見聞きしている児童は多くいるが、7割近くの児童が新聞をほとんど読んでいないと答えている。

【教科・学習について】

- ・9割以上の児童が毎日宿題をきちんとしている。
- ・自分の考えを発表する機会が多くあると答えた児童の割合が、全国値をやや下回っている。
- ・6割以上の児童が友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っている。
- ・今回の国語の問題について、解答を文章で最後まで書こうと努力していたと答えた児童の割合が、全国値を上回っている。
- ・算数の勉強は好きだと答えた児童が、全国値を上回っている。
- ・解き方が分からない算数の問題を8割以上の児童があきらめずに解こうと努力している。
- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法が無いか考えている児童が6割以上いる。
- ・算数の授業で、学習していることが将来役に立つと思っている児童の割合が全国値を上回っている。
- ・家庭において自分で計画を立てて勉強をしているという児童の割合が、全国値を下回っている。
- ・学校の授業の予習・復習に時間をとっている児童の割合が低い。
- ・国語の授業は大切に将来役に立つと考えている児童は9割近くいるが、好きだと答えた児童の割合は全国値を下回っている。
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていると答えた児童の割合が全国値をやや下回っている。
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方を分かるようにノートに書いていると答えた児童の割合が、全国値をやや下回っている。

3 今後の取り組み

本校では「自ら集中・持続・挑戦のできる子どもの育成」をテーマに掲げ、日々教育活動に取り組んで参りました。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、校内で漢字検定にも取り組んでいます。また読者が大好き児童を育てるため、学校図書、学級文庫を充実させると同時に、読書量や読書時間を増やすために「朝の読書」「読み語り」等の時間を設け実施しています。

算数科においては、昨年までの取り組みを継続しながら、計算力の定着を図るためのダイヤモンド作戦や「思考力」を育てるための授業の工夫を行っています。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムと同時に授業を始める、削った鉛筆を使う、下敷きをノートに敷いて書く等細かい学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

今回の学力調査では良好な結果が得られている項目もありますが、まだまだ十分に学習内容が理解できていない部分もあることがわかりました。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」ことができるよう、授業の工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業作りを進めて参ります。

生活習慣に関する結果から規則正しい生活、睡眠時間の確保を心がける必要があることが分かります。また、テレビやコンピューター、スマートフォンを持っている児童が多いので、使用方法や時間を決めるなど生活のルール作りをしていくことが大切です。

学習環境の結果から宿題をする時間に加え、復習や予習をする時間を設けたり、自分で計画を立てて勉強に取り組む姿勢を身につけたりすることで学習内容の理解がさらに深まると考えられます。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことは、子どもの心身の成長につながると考えています。

ほとんどの児童が人の気持ちが分かる人間や人の役に立つ人間になりたいと思っています。その思いが実現できるよう、個々の児童に応じた学力の向上を目指し、ご家庭と十分な連携をとりながら、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。

今後ともご協力の程よろしくお願い致します。